

児童生徒の生活と「場・人・もの」

障害の状態に関わらず、学部(学校)の段階、すなわちキャリア発達段階が上がるにつれて、児童生徒の「生活の場」「関わる人」「扱うもの」は、積み重なり広がっていきます。(以後、一部を除き、「場・人・もの」と表記します。)**「場・人・もの」の積み重なりや広がりを考慮することで、学部(学校)の段階に応じた児童生徒の生活を捉えやすくなります。**学習活動を設定するときに、「場」「人」は場面設定に、「もの」は教材・教具の工夫に生かすことができます。



学習活動の設定イメージ

下の図は、「育成を目指す資質・能力」と児童生徒の生活に結び付ける学習活動の設定イメージです。「育成を目指す資質・能力」と児童生徒の生活を結び付ける学習活動を設定するための**ポイント**は、以下の2点です。

- ①児童生徒の生活を捉えること
- ②「学んだことを生かしている姿」を考えること

児童生徒の生活は、個の実態と、障害の有無や軽重に関わらずに共通するキャリア発達段階と「場・人・もの」の積み重ねや広がりから捉えていきます。「学んだことを生かしている姿」は、各教科の目標及び内容(育成を目指す資質・能力)と児童生徒の生活を合わせて考えます。そして、これらを考慮して学習活動を設定します。

